令和２年 11 月 11 日（水）

オリンピック・パラリンピック講演会を実施しました！

１１月１１日（水）、フェンシング日本代表の　西岡詩穂さんをお迎えし、本校体育館にてオリンピック・パラリンピック講演会を実施しました。

【　西岡詩穂さん略歴　】

・小学６年時にフェンシングと出会い、中学で全国制覇を果たすと目標は世界の舞台へ

・身長 170 ㎝を超える恵まれた体格を武器に、日本女子体育大学３年生でナショナルチーム入りし、念願の２０１２年ロンドンオリンピックに初出場、個人２回戦・団体７位入賞の成績を収める。　２０１６年リオオリンピックへ２大会連続出場を果たし、個人３回戦進出。

・現在は、若手の育成に努めながら、現在も日本ランキングの上位を保ち続け、東京オリンピックへの出場とメダル獲得が期待されている。日本フェンシング界を長年にわたって牽引してきた。

体育館の出入り口に西岡選手の使用されているフェンシングのサーベルなどの道具やウエアの展示があり、舞台まで伸びた花道に、笑顔の中にも凛々しい表情の西岡選手が登場すると、体育館の生徒たちは大きな拍手でオリンピアンをお迎えしました。生徒への質問を交えながら、「今まで影響を与えてくれた人は誰だったか」「心友との出会い」「団体メンバーに選ばれなかった人たち」「オリンピック代表に選ばれなかった先輩たち」というトピックで、ご本人のオリンピック出場までの経験をとても分かりやすく、そして熱く語ってくださいました。ぶつかり合いながらもお互いを高めあえた高校での部活の友人、オリンピックを目指し、仕事を辞めて競技一本に絞りながらも代表に選ばれなかった先輩からの「もし試合で劣勢な状態でも、最後まであきらめずにやってほしい」という内容の手紙の紹介。そして講演の締めくくりとして「当たり前の対義語は・・・・感謝です。感謝の気持ちを常に持ちましょう」という言葉が生徒に深く届いたと感じています。多くの生徒からの質問にも、丁寧に答えていただきました。

最後まで真面目に真剣にそして熱のこもったお話でした。これからは今まで以上にフェンシングに注目して、応援していきたいと思います。西岡さん、本当にありがとうございました。２０２０でのご活躍を成瀬高校一同応援しています！

【　生徒の感想　】

・私は自分の気持ちを口に出したり、一つのものにひたすら一直線に挑んでいくことが得意ではないけれど、今回のお話を聞いて少し変わろうと思えました。今の自分を見つめ直すきっかけになりました。今の目標に対してあきらめそうになったり、投げ出そうと思うことが増えていたけれど、「好きという気持ちだけでもいい」とわかって、もう少し頑張ろうと思えました。

・「当たり前の反対は、あることが難しいこと、つまり感謝する」という言葉がとても印象に残りました。身の回りに感謝することがたくさんあると思いました。

・自分と向き合ってくれる人を大切にしようと思った。　・自分の気持ちを言葉で出してみることが大切。

・年齢の差は関係ないと聞いて、相手との経験値の差が大きかったとしても、果敢に挑めるようになりたい。

・言葉にすることに恥ずかしさやためらいがあるけれど、その言葉で自分や相手の気持ちや人生を変えるのなら、今後言葉をより大切にしようと思った。

・本気で好きなことがあることは、己を強くするのかなと思います。しんどい時楽しい時、波があってその長さや大きさは場合によって違うけれど、その波を過ぎた先にはじめて人は成長をするのだと思いました。

・中学の部活では、昔からその競技をやっている上手な子がいて、その子にはやっぱり勝てないと心の中で少しあきらめていました。今思うと、もっと頑張れたのでは、ずっと挑戦し続ければ良かったかなと考えます。今、夢中のことに全力で挑みたいと思いました。

・「好きだという気持ちがあっても、次第に薄れていく」という話は本当にその通りだと思った。

・最後まで何かをやりきることが出来る人はすごい。どうしてこんなことをしているのだろうと、最初に抱いていた気持ちを見失ってしまう、辛い気持ちの方が勝ってしまうというエピソードがとても共感できる。

・今の西岡選手がいるのは高校の時の部活仲間がいるからだ。私も仲間を大切にしていきたい！